

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	残火処理の作業中に発生する建物倒壊、分隊ごとに分担して作業するが、ワラ葺きトタン屋根の解体作業中、焼きした梁を外す時に一部の壁が倒壊する危険。
3. 体験した事例の中心的要素	火災の最盛期を過ぎた建物は、物理的に瓦の落下、床板の踏み抜き、壁の倒壊危険等が存しており、予め作業に入る前の安全確認を指揮監督者が良く確認し、各分隊が連携を保ちながら作業を行う。実際には、繋がったトタン屋根を引っ張って外そうとした時建物が僅かではあるが揺れた。また、焼け落ちた梁などを建物外へ出す作業中に外してはいけないう梁（つかい棒になって壁体の倒壊を止めている梁）に団員が手をかけた。本人も直ぐに気がついたが周りにいた者も注意が来た。
4. 体験した事例の原因・理由	それぞれの各分隊の活動は目先の付近には目が良く行き渡るが、他分隊の活動は見えにくくなりがちであること。作業前の注意指示の不足が存した。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。 行動の意思決定に問題があった。
------------------	---------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成22年9月29日 午前11時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋内：火災現場
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させそうになった。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	崩壊・倒壊（に巻き込まれる）
7. 事例体験時の活動	火災 その他：残火処理中
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	残火整理
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	数年に1度程度の割合で体験している。

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

外してはいけない梁については、作業前に指示をしておくべきであった。

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

--

○装備・資機材の対策について

--

○活動環境の対策について

--

○指揮・情報伝達の対策について

--

